

わしょく わ が し した えほん ほんがいへん
和食・和菓子に親しむ絵本 番外編

ちい はなし みじか しょうせつ
かずくんの小さなお話（短い小説）

み ゆめ
かずくんが見た夢
～ かずくんのおみそしる^{へん}編 ～



こ つた わ しょくぶんか わしょく わ がし した えほん
これは、「子どもに伝えたい和の食文化 ～和食・和菓子に親しむ絵本
だい だん なか み ゆめ はなし
～」の第1弾「かずくんのおみそしる」の中で、かずくんが見た夢のお話で
す。

しょうがくせい いま かあ ふたり ぐ
小学生のかずくん。今はお母さんと二人暮らし。

とう がいこく しごと
お父さんが外国でお仕事をしているからです。それでも

だいす あそ き
大好きなおばあちゃんが遊びに来てくれることもあって、

げんき す
かずくんは元気に過ごしていました。

ひ とう でんわ びょうき
そんなある日、お父さんから電話がありました。病気に

にゅういん かあ み ま
なってしまう、入院することに。すぐにお母さんがお見舞

い こ びょうき
いに行くことになりました。まだ子どものかずくんに病気

るすばん
がうつるといけないので、かずくんはお留守番です。

だいす うち き
でも、大好きなおばあちゃんがお家に来て、かずくんの

せ わ
お世話をしてくれることになりました。

まいにち つく
おばあちゃんは毎日おいしいごはんを作ってくれました。

げんき がっこう
そのおかげで、かずくんはいつもどおり元気に学校に

い たの す
行き、おばあちゃんと楽しく過ごしました。

かあ みま で みっかめ よる
お母さんがお見舞いに出かけてから三日目の夜。

ね ゆめ み
おふとんで寝ていたかずくんは夢を見ました。

とう ね よこ
かずくんはお父さんが寝ているベッドの横にいました。

とう びょうき
かずくん「お父さん、病気はよくなってきた？」

とう かあ かんびょう
お父さん「だいぶよくなったよ。お母さんが看病して

くれるし、かずくんもお見舞いに来てくれたし」

とう い お あ
お父さんはそう言うのとベッドから起き上がり、かずくんの
あたま
頭をなでました。

かずくん「えへへ」

とう しんぱい いま しごと
お父さん「心配かけてごめんね。今のお仕事が終わった

にほん かえ かあ
ら日本へ帰れるから、そうしたらまたお母さん

さんにん なかよ く
と三人で仲良く暮らそうね」

ふたり えがお はなし つづ かあ
二人は笑顔でお話を続けます。そこへお母さんもやって
きました。

かあ とう にほん かえ
お母さん「かずくん、お父さんが日本へ帰ってきたら、
い
まずどこへ行きたい？」

うち
かずくん「おじいちゃんとおばあちゃんのお家！」

いねか み
おじいちゃんが稲刈りしてるところを見たいし、
こめ つく
そのお米で作ったおばあちゃんのおにぎりも
た
食べたい！」



とう とう はや げんき
お父さん「じゃあお父さんは早く元気にならないと

きこく わしょく
いけないね。帰国したらみんなで和食や

わ が し た
和菓子も食べたいな」

さん にん びょうしつ なかよ はな とう
三人は病室で仲良くお話ししています。お父さんも

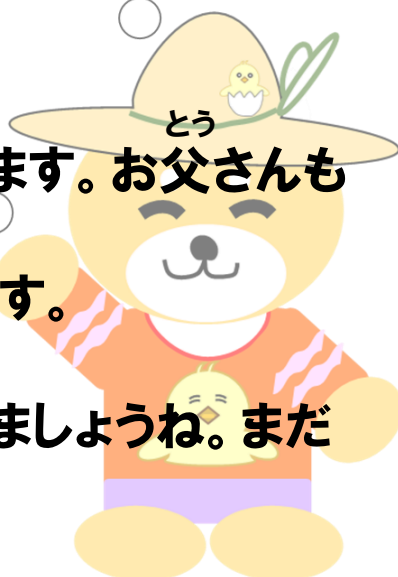
げんき み
すっかり元気になったように見えます。

かあ とう やす
お母さん「お父さん、そろそろ休みましょうね。まだ

なお
治ってないから」

とう ね
お父さん「そうだね、また寝ることにするよ。かずくん、

かあ いっしょうけんめい かんびょう
ありがとう。お母さんが一生懸命に看病して



くれるから、すぐよくなるよ」

かあ
かずくん「お母さん、すごくがんばっているんだね」

とう
お父さん「そうだよ。だからかずくんのところへ帰ったら、

かあ
『お母さん、がんばってきたね。お疲れさま』

と
とねぎらってあげてね」

かあ
かずくん「うん！」

かあ
お母さん「じゃあ、そろそろ…」

かあ い へ や なか
お母さんがそう言うと、部屋の中がどんどん明るくなり、

め と
かずくんはまぶしくて目を閉じました。

げんき ま とう
かずくん「ぼく元気で待ってるからね！お父さんと

かあ
お母さんもがんばってね！」

ちからづよ い ひかり なか
かずくんは力強くそう言いました。そしてまぶしい光の中

とう かあ えがお み き
に、お父さんとお母さんの笑顔が見えた気がしました。

め さ じぶん
目が覚めると、かずくんは自分のおふとんにいました。

たの ゆめ
かずくん「楽しい夢だったなあ」

ゆめ なか とう かあ あ
夢の中だったけど、お父さんとお母さんに会えてうれしく
おも
思いました。

あさ
おばあちゃん「おはよう、かずくん。朝ごはんできたから
た
食べにいらっしやい」

かずくん「はーい、ありがとう」

き が
かずくんはパジャマを着替え、おばあちゃんのところへ
い きょう つく
行きました。今日もおばあちゃんが作ってくれたごはんは
おいしいです。

かずくん「ねえおばあちゃん。お父さんの看病をがんばっ
かあ かえ
ってるお母さんが帰ってきたら、よろこばせて
あげたいな。どうしたらいいかな？」

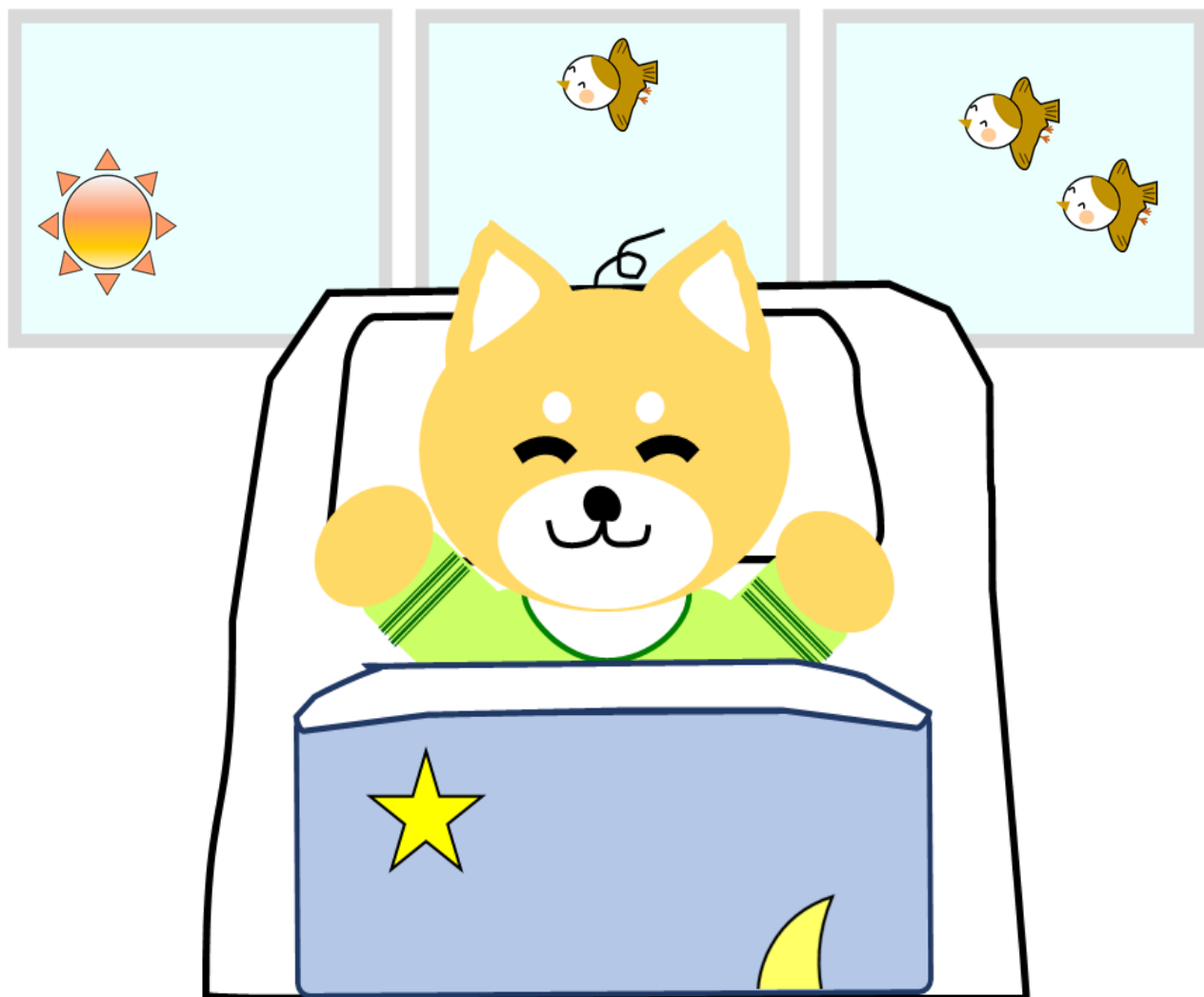
いっしょ かあ
おばあちゃん「そうだねえ……。じゃあ一緒に『お母さん、
おかえりなさい』のごはんやおみそしるを
つく
作ろうか」

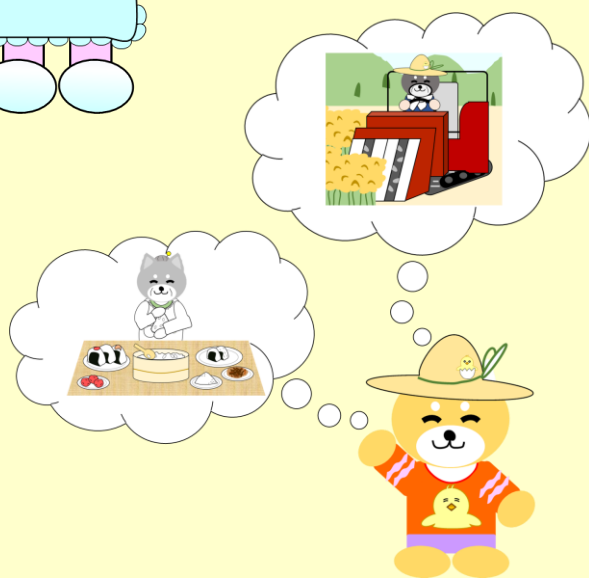
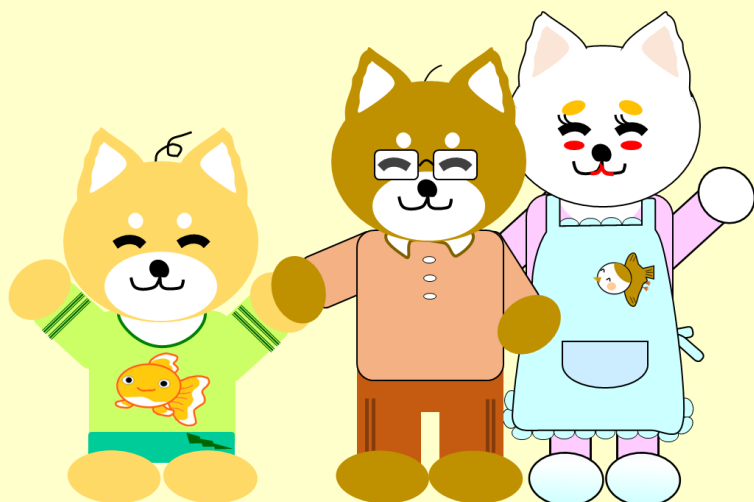
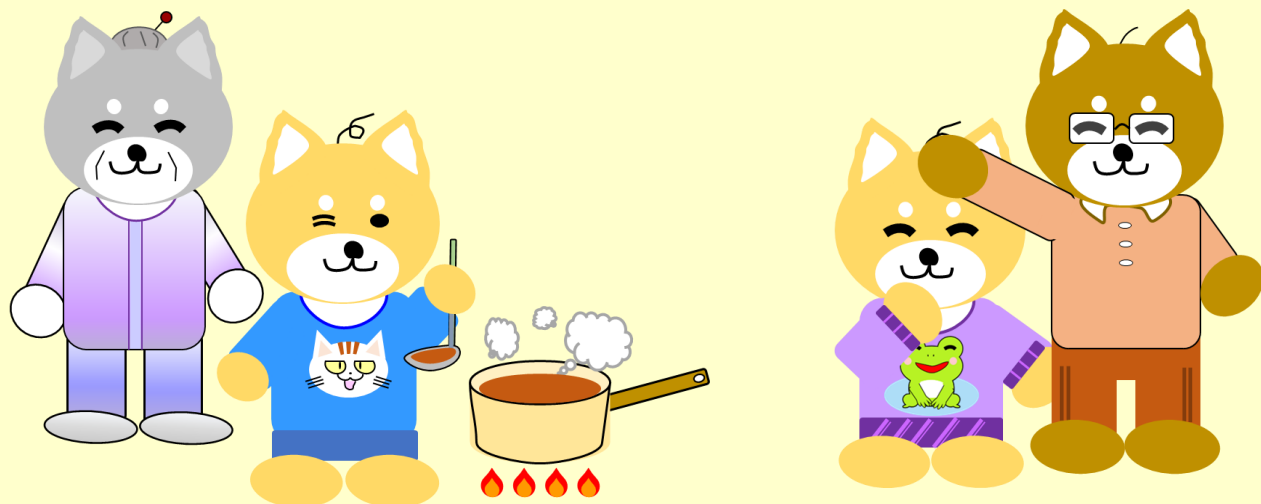
おし
かずくん「うん！おばあちゃん、教えてね！」

こうしてかずくんは、おばあちゃんにおみそしるの
つく かた おそ
作り方を教わることになるのでした。

～ おしまい ～

えほん め つづ
(絵本「かずくんのおみそしる」7ページ目に続く)





農林水産省東海農政局
経営・事業支援部
食品企業課



令和6年1月